

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成27年10月

魅力ある農を目ざして

高台から葛城連山・生駒丘陵・大和平野を大きく見はるかす「オーベルジュ・ド・ぶれざんす桜井」(以下オーベルジュと略します)は開店以来、大変な盛況の様です。素晴らしい景観を目にしなが、本格的フランス料理を口にしますので、今後もますます人気を博すでしょう。観光の大きな目玉として期待する声は高まるばかりです。「オーベルジュ」の招致は確かにヒットです。

ところで、この地域、安倍6区(高家・高田・山田・生田・橋本・池の内)は、県が地味の肥沃なことに注目し、農業振興の主要な基地として、早くから期待している地域であることも、また忘れてはならないのです。

人間は食糧がなければ生きて行けません。農こそはすべての基本。基幹産業中の基幹なのです。

「なら食と農の魅力創造国際大学校」と名称を変えて農業大学校を再開校したのも、この大目的に沿ってのことです。

県はこの地域、約20ヘクタールの土地を農業振興に向けるよう企画しています。若い人が農業から去って行きますが、逆に農業に憧れ、農業に挑戦したい若者もいるのです。

そうした若者には、この地域の農地を提供することも考えられています。

時代は変わりました。これからの農業はいかにあるべきか。いままでは土地を耕し、収穫することで終わっていましたが、今後は生産(第一次)から加工・製造(第二次)そして流通・販売(第三次)まで一貫することこそ農の魅力はあるのだと気づいたのです。「魅力ある農業」を目ざそう。これがこの地域の掲げる大理想です。決して観光だけに満足しているわけではないのです。

オーベルジュの仕事によって消費者の好みも、手にとるようにわかる筈です。これがたちどころに生産の品目・品質の参考になります。

この際、市民も農に目を向けて頂きたいのです。観光的には、例えば外国人観光客が希望すれば、短時間の農業体験などの企画も一案となっています。

市民の皆さん。オーベルジュもさることながら、もっと大きな視野で、この地域の発展を見守り、支援して行って下さい。

浅川 肇



オーベルジュ・ド・ぶれざんす 桜井(当館ホームページより)

桜井駅南口エリア将来ビジョン産官学民協働による発表会

先日9月29日開催された「2020桜井駅南口エリア将来ビジョン産官学民協働による発表会」には、うるわしの桜井をつくる会の皆様には多数ご参加いただき誠にありがとうございました。地元自治会の参加も含め約160名となり、松井市長と林理事より、「立地適正化計画をたて取り組む」という実現に向けたご返答をいただきましたので、その提案発表の概略をご紹介します。



桜井駅南口エリア将来ビジョン発表会の様子

桜井市では、人口減少や少子高齢化、幹線道路沿道への大規模店舗立地にとともなう商業機能の郊外移転を背景に中心市街地の空洞化が進行しています。こうしたことから、桜井駅南口エリア(周辺)では、平成22年より住民の有志で町家などの歴史的文化遺産を活用したまちづくり活動が行われてきました。さらに、平成23年には「桜井市本町通・周辺まちづくり協議会」が発足され、これまでに空き店舗を活用したイベント開催や商店街のアーケードの撤去など、地域主導のまちづくりが進められています。

以上のまちづくりの背景を受け、平成26年7月18日には(前)元田副市長を座長とする「桜井駅南口エリア(周辺)のまちづくり検討会」が発足されました。検討会では、これまで桜井駅南口エリア(周辺)の現況、課題を整理するとともに、将来のあり方について議論を積み重ねてきました。今回、その検討の成果として、「2020桜井駅南口エリア(周辺)将来ビジョン」を提言書としてまとめ、松井市長への提言を行いました。提言書は、桜井駅南口エリア(周辺)のあり方について、行政、市民、教育機関の役割を明確にし、具体的な取り組みとスケジュールをグランドプランとしてとりまとめたものであり、桜井駅南口エリア(周辺)のまちづくりの実現に向けて提案するものです。



プレゼンターの皆様方

①公的資源活用について

(エルトを含む駅南口エリアの公共空間のあり方)

②民間資源活用について

(本町通り沿いの空き町家・空き店舗利活用)

③景観資源活用について

(駅前通り・伊勢街道沿いの景観のあり方)

<アドバイザー>

大阪工業大学建築学科准教授 林田大作氏

摂南大学建築学科 小林健治氏

当日ご来場頂いた約160名の参加者の前で岡本健部会長より、松井市長へ、提言書が直接手渡されました。もちろんこれが終着点ではなく、提言書の内容を実現するべくこれまで以上に産官学民の協働によるまちづくりを推進してまいります。既に動き出している事も多々ありますが、部会長より、今後の取り組みの計画と意気込みについてお話を頂きました。



岡本部会長より松井正剛桜井市長へ

<公的資源>

公的資源としては、エルトの今後の展望が急務の課題となっている。エルト一階のスーパーまねきや撤退による街の危機感は大きくなっている。街の衰退を象徴する出来事。一方、桜井駅乗降客は一日当たり二万人近くあることも事実。公的施設をエルト二階の再整備により、利便性と魅力を高め、利活用を促進することから街の復活、再生、活性化が始まると考えます。

移動スーパー誘致による緊急対応をはじめ、次の一手をどんどん打ち出したい。そして、立地適正化計画の導入に期待。市長からもまずはエルトとの強いメッセージも戴いた。ピンチはチャンス。この危機感を共有し、「笑顔咲く桜井、つながりつながるうるわしの街」の実現に向け、行政も住民も自分ごととして捉え、今出来ることからアクションを起こし2020年に向け、明日の桜井を創っていき

(公的資源部会部会長 岡本 健)

<民間資源>

民間資源としては、空き家・空き店舗を資源と捉え、地域住民の方々と一緒に学びながら、一步一步進んでいきます。モデルケース作りを目指して、今後も以下の取り組みを行っていきます。

- ・大和・町家バンクネットワーク協議会に登録。HPでの情報公開を予定しており、HP作成中。
- ・奈良県立大学による空き店舗(旧井田青果店)で月一回のイベント「ほっとスペース」実施。
- ・大阪工業大学・摂南大学による空き店舗(旧京都相互銀行)の内部調査実施。
- ・買い物支援策として移動スーパー「とくし丸」を誘致。
- ・「空き家対策セミナー」10月5日実施。
- ・「本町通り機能配置ワークショップ」10月13日実施。
- ・「リノベーションスクール報告会」10月15日実施。
- ・イベント「ソラほんまちフェスタ」の際、空き店舗(旧京都相互銀行、旧井田青果店)をイベントスペースとして活用予定。

(民間資源部会部会長 吉田 哲也)



空き家を活用したイベントの様子

<景観資源>

桜井駅南エリアを元気にするために、景観の側面から、下記のいろんな課題について産官学民で取りみましましょう。

●木材のまち「桜井らしい駅の顔」について

⇒駅とエルト2階と直接つなぐ木造&瓦屋根の歩行者デッキ設置を実現することで、エルトの利用増・美しい駅の顔づくり・市民の利便性向上・観光客利用増を目指し、声をあげましょう。

⇒特に駅前には、景観に合った合法的な屋外広告物に改善することで、もてなしあるまちを目指しましょう。

●伝統的な町家の保存と活用について

⇒旧伊勢街道沿い(桜井本町通り含む)に多数残る伝統的な町家は、維持管理されなければ、空き家特別措置法(近隣に迷惑をかけるような空き家は強制的に撤去)により、消滅する危機にあります。まちの財産ともいえる伝統的な建造物は、保存利活用できるよう、事前の手立て(具体例;登録有形文化財の登録・街なみ環境整備事業等)をしていきましょう。

●次世代も定着する魅力ある街なみを維持・向上させましょう。

⇒魅力ある街なみをつくる作業は、行政任せでは実現しません。住民自身が景観意識を高め、協力し合ってより良い景観にしていくルール(具体例;デザインコード)をつくることで、保存だけでなく新しい住宅や店舗も景観に調和した魅力あるまちをつくっていきましょう。

(景観資源部会部会長 中尾 七隆)



木造の歩行者デッキ(イメージ案)



180年前の町家2階の梁(桜井特色)

事務局だより

- 「うるわしの桜井をつくる会の今後」をめぐって理事の皆様からご意見を賜りたく、意見交換会を10月24日(土)午後1時30分より「市民活動交流拠点」(まほろばセンター第1研修室)で行います。尚、24日ご都合の悪い方は25日(日)に同じテーマで同時刻・同会場で行いますので、是非ご参加下さい。

お知らせ

- 図書館友の会
10月の読書会は、『アルジャーノンに花束を』ダニエル・キイス著を読みます。
知能指数を高める手術とそれに付随する事柄を描いたSF小説
日 時 10月27日(火)午後1時30分から
場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点
問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345
友の会会員以外の参加も歓迎します。



- 大和さくらい100選 「記紀万葉ゆかりの地」
桜井市外山にある報恩寺の本尊、阿弥陀如来像(県指定文化財)は平等院本尊の阿弥陀如来坐像(国宝)の仏師として名高い定朝(じょうちょう)の作とされています。この度、奈良国立博物館美術院国宝修理部による2年間の修復を終え、5年半ぶりに当寺に安置されることになりました。11月15日(日)には、開眼法要が行われます。
拝観は11月末からの予定で、要予約(報恩寺 TEL0744-42-3757)



記事の説明

- 前号3ページの芝村藩に関する事項について多数の問い合わせがありましたので、改めて説明いたします。
芝村藩は信長の弟で茶人有樂齋として知られる織田長益の四男長政を始祖し、始め戒重に陣屋を構えたが7代目輔宣の時に芝へ移った。
尚、座像写真の説明が「信雄公」となっていますが「信長公」に訂正させていただきます。

編集後記 前号でも書きましたが、桜井駅南のスーパーが閉店。買物難民が生まれました。しかし、世の中は、捨てる神あれば拾う神ありとか。移動スーパーとして軽四輪がミュージックとともにやってきて、毎週火曜と金曜は本町で11時から12時まで。毎週木曜は駅南の派出所横で11時半から12時半まで、食品を販売するようになりました。

この陰には、小西宗日出氏のご尽力が大きいと、この欄を借りて感謝します。先日、小西氏と歓談しましたが、桜井の商店街の衰退を見つめてきた人であり、人一倍桜井を愛している人だと感じました。(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345